

資料編



資料編

環境方針

キリンググループ環境方針

基本方針

キリンググループは、社会課題の解決による事業の持続的成長を経営の根幹に据え、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代に繋げます。

行動指針

事業活動のあらゆる側面で、環境に関わる社会課題の解決を経営の最重要課題の1つとして高い目標を設定し、トップのリーダーシップと従業員の全員参加で取り組みます。

■ コンプライアンス

私たちは事業活動に関連する環境の法規制・協定および自主管理基準について、高いモラルで順守します。

■ 環境マネジメント

私たちは環境マネジメントシステムを構築し、経営戦略と連動させて継続的に改善します。

■ コミュニケーション

私たちは透明性、信頼性の高い情報を発信し、広くステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

■ 技術開発

私たちは革新的な技術や手段を創出・導入するとともに、お客様をはじめ広くステークホルダーと共同して持続的に課題解決に取り組みます。

■ 人財育成

私たちは自社およびその枠組みを超えて社会全体に、環境にポジティブな影響を創出し、実行できる人財を継続的に育成します。

2021年10月改訂

資料編

生物資源に関する方針

キリンググループ生物多様性保全宣言

キリンググループは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来にわたって「食と健康」の新たなよるこびを提供し続けるために、キリンググループは、生物多様性保全のためのさまざまな活動を積極的に行います。

1.生物多様性に配慮した資源利用を推進します

世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。

2.キリンググループの持つ技術を活かします

「食と健康」の新たなよるこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。

3.ステークホルダーと連携して取り組みます

従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。

4.条約や法令に適切に対応します

生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

2010年10月策定・発表

■キリンググループ持続可能な生物資源利用行動計画

■キリンググループ遺伝資源アクセス管理原則

キリンググループ持続可能な生物資源調達ガイドライン

目的

「キリンググループ生物多様性保全宣言」に基づき、「生物資源の持続可能な調達」を続けるために、基本的な考え方を示します。

適用範囲

キリンググループが日本国内で調達する生物資源において、リスク評価により森林の違法伐採や環境破壊などのリスクを伴うと判断した特定のものについて適用します。

持続可能な生物資源調達ガイドライン

キリンググループは、対象とすると決めた生物資源について以下の原則のもとに調達を実施します。

- 1.違法に森林を伐採して造成されたプランテーション、もしくは植林地に由来する原料ではないこと、また伐採にあたって原木生産地の法令を守り、適切な手続きで生産されたものであることが確認されたもの
- 2.信頼できる第三者によって認証された農園・森林などに由来するもの
- 3.環境破壊などを行なっていると判断されている事業者が生産したものであるもの*

実施と運用に関して

左記のガイドラインは、生物資源が抱える課題や地域による調達事情がそれぞれ異なることを考慮して、調達する産物の生物多様性上のリスクの評価にもとづいて定期的に見直しを行うとともに、各国または地域の特性を勘案し、別途行動計画を定めて段階的に実施することとします。取り組みにあたっては、サプライヤーおよび専門家・NGOなどのステークホルダーと協力し、原料生産地で働く人々が生物資源の持続性を考慮した生産へ移行する支援も考慮しながら、長期的視点で取り組みを進めます。

情報公開と外部コミュニケーション

取り組みの進捗状況は、サステナビリティレポートやWebなどを通じて、透明性を確保しながら公開するとともに、適切な外部コミュニケーションにより持続可能な生物資源の利用に向けたお客様やパートナー・社会の理解を促進します。

* 現在のところFSCのPolicy for the Association of Organization with FSCを参照とします。

その他の方針・原則など

プラスチックに関する方針

■キリンググループ プラスチックポリシー

製品開発での環境配慮

■環境に配慮した容器包装等設計基本方針

環境大臣への約束

■エコ・ファーストの約束

気候変動の取り組み

■キリンググループ カーボンクレジット方針

リンク

環境に関する各方針は以下リンクに掲載しています。

https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_policy/

https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/3_4a/

資料編

政策提言

RE100 CLIMATE GROUP 政策ワーキンググループを通じた
日本政府への提言作成に参加

キリンホールディングスは、RE100のメンバー企業として、2024年1月～3月の政策ワーキンググループでの活動を通じ、日本政府に対して、再生可能エネルギーの設備容量の拡大などを含む1.5℃目標達成への提言作成に参画しました。CLIMATE GROUPのウェブサイトには藤川執行役員のメッセージを掲載しています。

<https://www.there100.org/sites/re100/files/2024-06/RE100%20Open%20Statement%20-%20JPN.pdf>

「国際プラスチック条約企業連合(日本)」に参加

キリンホールディングスはプラスチック汚染の根絶を目指す野心的な国際条約策定に向け、日本政府に政策提言活動を行う「国際プラスチック条約企業連合(日本)」に、2023年11月の発足時より参加しています。プラスチックのバリューチェーンをサーキュラーエコノミーへと移行させることで、廃棄物として汚染を引き起こすことを阻止する、野心的な国連条約の締結を企業、金融機関、NGOパートナーと共同で求めています。

Business for Natureによる「COP15に向けた企業声明
(自然に関する評価と開示の義務化について)」に署名

キリンホールディングスは、2022年12月にカナダのモントリオールで開催された「国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)」において、2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復させるため、全ての企業と金融機関による自然への影響と依存の評価および開示の義務化を目指し、Business for Natureが、当社を含む世界各国の企業に対して、賛同、署名を呼びかけた「COP15に向けた企業声明」に賛同し、2022年10月18日に署名しました。

「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟

キリンホールディングスは環境省が主導する「生物多様性のための30by30アライアンス」に2022年4月8日付で加盟し、取り組みを支援しています。「30by30」は、「2030年までに地球上の陸域および海域の30%を保全・保護し、生物多様性の保全に貢献」することを目標に掲げた表明で、キリングroupの生物多様性保全の活動エリアと、そこから得られた知見がOECMsに貢献できると考えています。

経済産業省「GXリーグ基本構想」への賛同を表明

キリンホールディングスは、2022年3月に経済産業省が公表した「GXリーグ基本構想」に賛同しました。「GXリーグ」は、GXに積極的に取り組む「企業群」が、官・学・金でGXに向けた挑戦を行うプレイヤーとともに、一体として経済社会システム全体の変革のための議論と新たな市場の創造のための実践を行う場として設立されました。

WWFジャパン「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ 2025」
へ参画

キリンホールディングスは、2022年2月22日にWWFジャパンが呼びかける、2025年へ向けた容器包装／使い捨てプラスチックに関するプラスチック諸問題の解決を目指す枠組み「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ 2025」に参画しました。

<https://www.wwf.or.jp/campaign/pcc2025/>

Climate Leaders Coalitionへの参加

ライオンは、企業のCEOが緩和と適応に関する共同で透明でかつ有意義な行動を通じて気候変動への対応を主導することを使命としてAustralian Climate Leaders Coalition (CLC) への参加を継続しています。CLCに参加することで、ニュージーランドがゼロカーボン経済への移行を可能にする政策と投資を呼びかけるとともに、参加企業として排出量の測定と公的な報告、公的な排出量削減目標の設定、サプライヤーとの協力による排出量削減など、気候変動対策を行うことを約束します。

非財務情報開示に関する検討会への参加

キリングroupでは、2021年から継続して経済産業省の非財務情報の開示指針研究会にCSV戦略担当役員が要請に応じて参加しています。この研究会では、非財務情報の利用者との質の高い対話に繋がる開示や開示媒体のあり方について検討するとともに、非財務情報の開示および指針に関する日本の立場を的確に発信し、本課題に関する国際的な評価を高めることを目指しています。CSV戦略担当役員は、2020年10月9日に開催された「TCFDサミット2020(主催:経済産業省、共催:WBCSD、TCFDコンソーシアム)」でもパネルディスカッションに登壇しています。

2020年には、担当者が業種別ガイダンス検討委員会(食品セクター)の検討委員として活動し、2020年7月31日に公開されたTCFDコンソーシアムの「気候関連財務情報開示に関するガイダンス2.0(TCFDガイダンス2.0)」の中で公開されています。

2022年～2023年には、環境省の「ネイチャーポジティブ経済研究会」の委員に担当者が参加しています。この検討会では、生物多様性・自然資本とビジネスの関係について、日本の産業構造を踏まえつつ、気候変動や循環経済などの諸課題の統合的解決などを目指しました。

資料編

政策提言に繋がる自主的な参画

コンソーシアムおよび省庁の活動への参画（団体名 / 活動内容）

RE100

電力の再生可能エネルギー 100%化を目指す企業で構成される国際的なイニシアチブ「RE100」に加盟しています。2040年までに使用電力の再生可能エネルギー 100%化を実現に向け取り組んでいます。

気候変動イニシアティブ(JCI)

気候変動対策に積極的に取り組む企業や自治体との情報発信や意見交換を強化するためのネットワークとして参画しています。

TCFDコンソーシアム

キンホールディングスは、「TCFDコンソーシアム」に2019年設立時より参画しています。2020年は、業種別ガイダンス検討委員会（食品セクター）の委員として活動しました。

WE MEAN BUSINESS

キンググループは、WE MEAN BUSINESS が提唱する「SBTによる削減目標の設定」「CDSBによるメインストリームレポートでの気候変動対応の報告」にコミットメントしています。

Science Based Targets Network

自然資本に関する科学的根拠に基づく目標を設定し、持続可能な地球システムの実現を目指す団体。キンホールディングスはGHG排出削減を目指すSBTイニシアチブ（SBTi）の基準に沿った目標を設定し、2020年に「SBT1.5℃」目標、2022年には「SBTネットゼロ」の認定を取得しています。SBTiにつづく新たな自然資本の目標設定イニシアチブがSBTs for Nature。ルールメイキングを議論するコーポレートエンゲージメントプログラム（CEP）に国内医薬品・食品業界としてはじめて参画しています。

国連グローバル・コンパクト

キンググループは「国連グローバル・コンパクト」に2005年9月に参加しました。

日本サステナビリティ・ローカル・グループ（JSLG）

キンホールディングスは、ステアリング・コミティ・メンバーである理事として参加しています。

脱炭素に繋がる新しい豊かな暮らしを創る国民運動

キンググループは、2022年から始まった脱炭素に向けた新たな国民運動「脱炭素に繋がる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」に参加しています。また、本運動を支える「新国民運動官民連携協議会」にも参加しています。

経団連自主行動計画

キンビールが加入するビール酒造組合および麒麟ビバレッジが加盟する全国清涼飲料連合会では、地球環境の保全を考え、日本経団連の環境負荷低減の取り組みに参加し、GHG排出量削減と廃棄物の再資源化に取り組んでいます。

エコ・ファースト

企業が環境大臣に対し、地球温暖化対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度がエコ・ファーストです。キンググループは製造業第1号として認定され、認定企業で組織する「エコ・ファースト推進協議会」にも参加しています。

生物多様性民間参画パートナーシップ

キンホールディングスは、日本経済団体連合会と日本商工会議所、経済同友会の3団体が2010年に設立した「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加しています。

フォレスト・サポーターズ

キンググループは、（社）国土緑化推進機構が運営事務局を務める美しい森林（もり）づくり推進国民運動である「フォレスト・サポーターズ」活動に参加しています。

ウォータープロジェクト

キンググループは、健全な水循環の維持または回復の推進などを目的として発足した官民連携啓発プロジェクト「ウォータープロジェクト」に2014年から参加しています。

レインフォレスト・アライアンスコンソーシアム

キンググループは、持続可能な農業の推進を目指すレインフォレスト・アライアンスとその認証製品を取り扱う企業が2015年9月に設立した「レインフォレスト・アライアンスコンソーシアム」に設立メンバーとして参加・活動しています。

持続可能な紙利用のためのコンソーシアム（CSPU）

キンググループは、紙の利用について先進的な取り組みを行う企業5社（現在11社）とWWFジャパンが設立した「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」に設立メンバーとして参画し、持続可能な紙利用のための取り組みを進めてきました。

グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）

地球規模の新たな課題である海洋プラスチックごみ問題の解決に向け、プラスチック製品の持続可能な使用や代替素材の開発・導入を推進し、イノベーションを加速化するために設立された「グリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス（CLOMA）」に参加しています。

持続可能なパーム油のためのネットワーク（JaSPON）

持続可能なパーム油の調達と消費の促進を目指して設立された「持続可能なパーム油のためのネットワーク（JaSPON）」に参加しています。

Alliance To End Plastic Waste

キンググループは、環境中の廃棄プラスチック問題を解決するための国際的非営利団体であるAlliance To End Plastic Wasteに参加しています。グローバルな視点で世界を取り巻くプラスチック廃棄物問題解決に取り組むことで、参加企業と共に「プラスチックが循環し続ける社会」の実現を目指しています。

The TNFD Forum

The TNFD Forumは、自然資本に関するリスク管理に向けた情報開示の枠組みである自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）のミッションとビジョンを共有するサポーターネットワークです。キンホールディングスは、2021年12月に国内食品飲料・医薬品としてはじめて参画しています。

Business for Nature

キンホールディングスは、2022年12月に開催された「国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）」に向けた「COP15に向けた企業声明」に賛同し、署名しました。

生産地（生産地 / 活動内容）

スリランカ紅茶農園

茶葉生産地スリランカの紅茶農園で、持続性を高める目的で、2013年よりレインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を行っています。2018年からは、小農園の認証取得支援と農園の水源地保全も開始しています。

ベトナムコーヒー農園

2020年より、レインフォレスト・アライアンス認証の取得支援を、ベトナムのコーヒー農園に拡大しています。

国内ブドウ畑

2014年から、長野県上田市陣場台地にあるメルシャンの自社管理畑 梶子（マリコ）ヴィンヤードや山梨県の日岡・城の平ヴィンヤードで、生態系調査・植生再生活動を行っています。麓の小学校では環境教室も行っています。

資料編

政策提言に繋がる自主的な参画

NGO・NPO・環境団体（団体名 / 活動内容）

WWFジャパン

WWFジャパンには「持続可能な生物資源調達ガイドライン」「同行動計画」策定時に協力をいただきました。「持続可能な紙利用のためのコンソーシアム」も共同で設立し、活動を継続しています。

レインフォレスト・アライアンス

スリランカの紅茶農園および、ベトナムのコーヒー農園の認証取得支援を共同で行っています。

FSCジャパン

FSC® 認証紙普及のために共同で活動を行っています。キリンググループは、2017年に「SDGsとFSC認証に関するバンクローバー宣言」にコミットメントしています。

RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）

キリンホールディングスは「持続可能なパーム油」の生産と利用を促進する非営利組織の正会員として活動しています。

こども国連環境会議推進協会（JUNEC）

「キリン・スクール・チャレンジ」を共催しています。

アースウォッチ・ジャパン

梶子ヴィンヤードでの植生調査およびクアラ再生活動を共同で実施しています。

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

学童保育などを対象とした「環境マークプログラム」を共同で展開しています。

業界団体（団体名 / 活動内容）

ビール造酒組合

容器包装や地球温暖化対策・サーキュラーエコノミー形成などの環境自主行動計画の策定・取り組み、飲料容器の散乱防止・環境美化などを共同で行っています。

全国清涼飲料連合会

容器包装や地球温暖化対策・サーキュラーエコノミー形成などの環境自主行動計画の策定・取り組み、飲料容器の散乱防止・環境美化などを共同で行っています。

リサイクル関係団体

容器包装リサイクル協会や各種リサイクル推進協議会などとともに3Rを推進しています。

食品容器環境美化協会

飲料メーカー 6 団体が集まり、環境美化のための活動を行っています。

次世代エンゲージメント（活動名 / 活動内容）

キリン・スクール・チャレンジ

中高生を対象に、環境ワークショップを開催しています。

全国ユース環境ネットワーク

環境省と独立行政法人環境再生保全機構が主催する全国ユース環境ネットワークに協賛し、地方大会・全国大会の審査委員を務めています。

環境マークプログラム

キリンググループは、一般社団法人地球温暖化防止全国ネットが地球環境基金の助成を得て開発した「環境マークプログラム」をベースとして共同で開発した特別バージョンのツールを使って、学童保育やガールスカウト・ボーイスカウト、図書館などの子どもたちを対象としたプログラムの実施を支援しています。

工場環境ツアー

横浜工場「自然の恵みを感じるツアー」などを実施しています。

研究機関（団体名 / 活動内容）

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

遊休荒廃地におけるブドウ畑の造成に伴う生態系の変化の共同研究、および希少種・在来種の植生再生活動を行っています。

資料編

サステナブルファイナンス

グリーンボンドとトランジション・リンク・ローンに関するレポートはこちらのウェブページをご参照ください。

https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/sustainable_finance/

資料編

環境マネジメント認証取得状況

日本

2025年6月現在の状況です。

事業会社	事業所	種類
キリンビール	統合認証（10）	自己適合宣言
キリンビバレッジ	統合認証（3）	自己適合宣言
メルシャン	統合認証（3）	自己適合宣言
キリンディスティラリー	富士御殿場蒸溜所（1）	自己適合宣言
信州ビバレッジ	本社工場	第三者認証
協和キリン	高崎工場、宇部工場、東京リサーチパーク、富士事業場	自己適合宣言
協和発酵バイオ	本社、山口事業所	第三者認証
協和ファーマケミカル	協和ファーマケミカル	第三者認証
第三者認証取得事業所数	3	
自己適合宣言事業所数	21	
認証未取得事業所数	5	
取得率（%）	83	

海外		
事業会社	事業所	種類
ライオン	Little Creatures Brewery Fremantle	第三者認証
	Little Creatures Brewery Geelong	
	Little Creatures Packaging O'Connor	
	Castlemaine Perkins Brewery	
	James Boag Brewery	
	Murwillumbah Brewery	
	Tooheys Brewery	
	Pride Brewery	
	Speights Brewery	
Wither Hills Winery		
ベトナムキリンビバレッジ	ベトナムキリンビバレッジ	第三者認証
コーク・ノースイースト	Hartford	第三者認証
	Londonderry	
麒麟啤酒(珠海)	金鼎工場	第三者認証
協和発酵バイオ	Thai Kyowa Biotechnologies	第三者認証
	上海協和アミノ酸	
認証取得事業所数	16	
認証未取得事業所数	13	
取得率(%)	55	

資料編

外部表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2025 年	キリンホールディングス	第 6 回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門	金賞（4 回目）	環境省
2024 年	キリンホールディングス	環境教育・ESD 実践動画 100 選	選定	環境省
2024 年	キリンビール	食品ロス削減推進表彰	審査委員会委員長賞	消費者庁・環境省
2024 年	キリンホールディングス	CDP 水セキュリティ	A リスト（8 回連続）	CDP
2024 年	キリンホールディングス	CDP 気候変動	A リスト	CDP
2024 年	キリンホールディングス	令和 6 年度 民間部門農林水産研究開発功績者表彰	農林水産大臣賞（βラクトリンの発見・事業化）	農林水産省
2024 年	キリンホールディングス	SX 銘柄（サステナビリティ・トランスフォーメーション銘柄）2024	SX 銘柄選定	経済産業省
2024 年	キリンホールディングス	CDP サプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード（5 年連続）	CDP
2024 年	キリンホールディングス	第 5 回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門	金賞	環境省
2024 年	キリンホールディングス	CDP 水セキュリティ	A リスト	CDP
2024 年	キリンホールディングス	CDP 気候変動	A ー	CDP
2024 年	キリンホールディングス	第 5 回「日経 SDGs 経営調査」	最高位（5 年連続）	環境省
2023 年	キリンホールディングス	CDP サプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード	環境省
2023 年	キリンホールディングス	国内食品製造事業者の持続可能な原材料調達優良企業	官房長賞	農林水産省
2023 年	キリンホールディングス	第 4 回「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」環境サステナブル企業部門	特別賞	環境省
2022 年	キリンホールディングス	第 10 回環境省グッドライフアワード	10 周年特別賞 生物多様性賞	環境省
2022 年	キリンホールディングス	CDP 水セキュリティ	A リスト	CDP
2022 年	キリンホールディングス	CDP 気候変動	A リスト	CDP
2022 年	キリンホールディングス	CDP サプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード	CDP

容器包装での表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022 年	[生茶] ブランドの新ペットボトル[グリーンエコロジーボトル]	2022 日本パッケージングコンテスト	包装技術賞（適正包装賞）	公益社団法人日本包装技術協会
2022 年	ワイン用軽量 PET ボトル開発	第 46 回木下賞	包装技術賞	公益社団法人日本包装技術協会
2022 年	ハートランドビール 330ml・500ml びん	第 18 回ガラスびんアワード 2022	特別賞	日本ガラスびん協会

事業所表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2023 年	上海協和アミノ酸有限公司	節水型企業再評価	表彰	上海市
2023 年	上海協和アミノ酸有限公司	工業用水再利用事例評価会	優秀賞	上海市

緑化表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022 年	キリンビール滋賀工場	琵琶湖森林づくりパートナー協定	水源の森づくりへの貢献に対して感謝状	滋賀県

省エネルギー表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022 年	キリンビール北海道千歳工場	北海道省エネルギー・新エネルギー促進大賞 新エネルギー部門	奨励賞	北海道庁
2022 年	協和キリン宇部工場	山口県地球温暖化対策	優良事業場	山口県
2022 年	信州ビバレッジ	事業活動温暖化対策計画書制度	優良事業者表彰	長野県環境部ゼロカーボン推進室
2022 年	Thai Kyowa Biotechnologies	Green Industry	level 3	Industry Ministry

生物多様性表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2025 年	城の平ヴィンヤード	自然共生サイト	認定	環境省
2023 年	梶子ヴィンヤード	自然共生サイト	認定	環境省

資料編

その他の情報開示

商品を通じた環境情報開示（対象名 / 開示内容）

エコレール

2006年には麒麟ビバレッジが、2010年には麒麟ビールが、それぞれ鉄道貨物輸送を活用し地球環境問題に積極的に取り組む企業として、国土交通省が推進する「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。（2022年時点では麒麟ビールだけが継続）

カーボンフットプリント

麒麟ビールは、2008年からビール業界と共にカーボンフットプリントについて取り組みを開始しました。ビール類の算定ルールとなるPCR（Product Category Rule）は2011年2月に認定され、2013年12月に改訂されました。

レインフォレスト・アライアンス認証マーク

2021年8月に、自然と作り手を守りながら、より持続可能な農法に取り組むと認められた農園に与えられるレインフォレスト・アライアンス認証マークを表示した「麒麟 午後の紅茶 ストレートティー」250ml紙パック（LLスリム）の通年販売を開始しています。

FSC認証ラベル

麒麟ビール、麒麟ビバレッジ（トロピカーナ含む）の紙製容器包装の多くに、お客様に森林を守ることの大切さを理解いただくために、FSC認証ラベルを付けています。メルシャンの紙製容器包装やサンライズ・ブランドのワインの一部にも付けています。

オーガニックワイン

メルシャンでは、ユーロリーフ、エコサート、ビオディバン、ビオアグリサート、ソビスサートなどの「オーガニック認証」を受けているワインを販売しています。

投資家への情報開示（対象名 / 開示内容）

各種レポート

以下のような投資家向け各種レポートでも環境に関する情報を開示しています。詳しくは→P.3

- 統合レポート
- キリングループ環境報告書*
- キリンホールディングス有価証券報告書
- 協和キリン アニュアルレポート
- 協和発酵バイオ CSV Progress Report
- Lion Sustainability Report
- Blackmores Sustainability Report
- FANCL ファンケルレポート

各種ウェブサイト

以下のようなウェブサイトでも環境に関する情報を開示しています。詳しくは→P.3

- キリンホールディングス 社会との価値共創サイト(環境)*
- キリンホールディングス IR情報

※気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD) 最終報告書に基づく情報は、2018年から毎年、環境報告書および環境サイトで開示しています

講演（日時 / 対象名）

2024年3月1日

内閣官房水循環政策本部「第3回企業連携水循環ウェビナー」

2024年4月19日

グリーンカーボンオフセットフォーラム「第2回公開セミナー」

2024年10月17日

一橋大学CFO教育研究センター

2024年10月18日

環境省「企業の脱炭素実現に向けた統合的な情報開示（炭素中立・循環経済・自然再興）に関する勉強会」

2024年10月25日

日豪経済委員会

2024年12月8日

戸田育英財団

2024年12月11日

Sri Lanka Tea board

事例紹介（対象名 / 開示内容）

JB Press「サステナビリティ経営の最前線」

麒麟が先駆的に注力する環境経営の取り組み「ネイチャーポジティブ」の真価
<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/79753>

日経ESG「Hot Issue」

麒麟、調達先と削減策を共有
<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00005/041200446/>

資料編

気候変動のシナリオ・自然資本のシナリオ

気候変動のシナリオ			
		キリンググループ・シナリオ3 4℃シナリオ。SSP3、RCP8.5	キリンググループ・シナリオ1 2℃または1.5℃シナリオ。SSP1、RCP2.6
シナリオ		●気候変動の法規制は先進国では厳しいが、世界全体では十分ではなく、結果的に必要なGHG排出量削減は未達成 ●気温上昇、渇水や豪雨、日較差縮小により農産物は大幅な収量減、品質低下。気候変動による自然災害も頻発・甚大 ●企業の法規制対応、エネルギー使用の財務影響は小さいが、安価で品質の高い自然資本利用が難しくなる ●温暖化により感染症、熱中症なども増加	●世界中で気候変動の厳しい法規制が施行され、GHG排出量が十分削減されている ●気温上昇が抑えられ、自然災害も現在より大きく増えることはなく、農産物の収量への影響も限定的。自然災害は現状より大きな変化はない ●企業の法規制対応、エネルギー使用の財務影響は大きい、自然資本の利用コストは許容範囲 ●温暖化による健康への影響は軽微
分析結果		●主要な原料農産物で大幅な収量減。品質低下の可能性。調達コスト増 ●気候変動に伴う洪水や渇水による農産物生産地被害、製造停止、配送困難 ●炭素税によるエネルギーコスト、農産物価格上昇が軽微 ●温暖化による感染症・熱中症の被害大	●原料農産物収量減、調達コストへの影響は軽微 ●気候変動に伴う洪水や渇水による農産物生産地、製造、配送への影響は軽微 ●炭素税によるエネルギーコスト、農産物価格の影響大 ●温暖化による感染症・熱中症の影響は継続
科学的根拠	農産物	●Decreases in global beer supply due to extreme drought and heat, Nature Plants, VOL.4, NOVEMBER 2018, 964-973 (Xie, et al.) ●IPCC (2019) Climate Change and Land: an IPCC special report on climate change, desertification, land degradation, sustainable land management, food security, and greenhouse gas fluxes in terrestrial ecosystems Chapter 5: Food Security ●Risk of increased food insecurity under stringent global climate change mitigation policy. Nature Climate Change, volume 8, pages 699-703 (Hasegawa T, Fujimori S, Havlik P, Valin H, Bodirsky BL, Doelman JC, Fellmann T, Kyle P et al. 2018) ●Zebish et al (2005) "Climate Change in Germany Vulnerability and Adaptation of climate sensitive Sectors" FAO "Food and agriculture projections to 2050" 他	
	渇水リスク	●Aqueduct 3.0 (現在リスク)、Aqueduct 2015 (将来予測、気候シナリオである RCP4.5とRCP8.5と社会経済シナリオである SSP2とSSP3を組み合わせたリスク評価) 他	
	洪水リスク	●AIR Touchstone version 8.2	
	農産物 (温暖化による価格、炭素税の影響)	●IPCC (2019) Climate Change and Land: an IPCC special report on climate change, desertification, land degradation, sustainable land management, food security, and greenhouse gas fluxes in terrestrial ecosystems Chapter 5: Food Security および Risk of increased food insecurity under stringent global climate change mitigation policy. Nature Climate Change, volume 8, pages 699-703 (Hasegawa T, Fujimori S, Havlik P, Valin H, Bodirsky BL, Doelman JC, Fellmann T, Kyle Petal. 2018)	
	エネルギー	●IEA [World Energy Outlook 2019] Annex A (将来の電力排出係数下落率)、IEA WEO 2019 (キリンググループシナリオ3: 現政策シナリオ、グループシナリオ1: SD シナリオ、1.5℃シナリオ: IPCC 1.5℃特別報告書)	

自然資本のシナリオ		
		キリンググループ・シナリオ3 4℃シナリオ。SSP3、RCP8.5
シナリオ		独自シナリオ
分析対象	依存度	●トウモロコシ、大麦、小麦、米、大豆、さとうきび、ホップ、紅茶葉、緑茶葉、ウーロン茶葉、コーヒー豆、粉乳・生乳、グレープフルーツ、レモン、オレンジ、ブドウ、りんご、トマト、梅、パーム油、段ボール・紙パック
	影響度	●同上
科学的根拠	農産物別 GHG排出量	●カーボンフットプリント: CarbonCloud ClimateHub のデータベース ●農業生産のデータ: FAOによる直近5年間の平均値、IPCCガイドラインに基づく排出量のモデル、温暖化係数はIPCCのGWP100を適用 ●紙: 日本製紙連合会のCFPデータ (ClimateHubのデータベースにないため)
	土地利用 フットプリント	●作物別の作付面積 (Area Harvested: ha) および生産量 (Production Quantity: t): FAOのFAOSTATにおける2022年数値を用いて単位収穫量あたりの作付面積 (ha/t) を算定 ●紙: 世界の林産物フットプリント算定に関する論文におけるデータを用いて算定 (FAOSTATに含まれていないため)
	農産物別 ウォーター フットプリント	●M. M. Mekonnen and A. Y. Hoekstra (2011) The green, blue and grey water footprint of crops and derived crop products Hydrol. Earth Syst. Sci., 15, 1577-1600 ●これに含まれない場合はSchynsらの別の論文に記載のウォーターフットプリントを特定 (Joep F. Schyns, Martijn J. Booij, Arjen Y. Hoekstra (2017) The water footprint of wood for lumber, pulp, paper, fuel and firewood Advances in Water Resources Volume 107, September 2017, Pages 490-501)
	コモディティ リスク	●SBTNのHigh Impact Commodity Listに農産物が含まれているかどうかで判断 ●EUの森林破壊防止規則 (EUDR) の対象コモディティリストに含まれているかどうかで判断
	農産物・地域別 水リスク	●WRIのAqueduct FoodおよびIFPRI (国際食糧政策研究所) による世界中の国・地域の食料生産、需要、貿易、価格、飢餓当に関するデータを相互参照して評価
	汚染 (肥料使用量)	●国際肥料協会 (IFA) のデータベース [IFASTAT]: 窒素、リン酸、カリウムの農産物別1haあたりの使用量 (kg/ha)

資料編

参考文献

気候変動による主要農産物収量へのインパクト

- Prioritizing climate change adaptation needs for food security in 2030. (Lobell, D.B. et al.)
- Potential impacts of climate change on agricultural land use suitability : barley (Van Gool, D. and Vernon, L.)
- Climatic changes and associated impacts in the Mediterranean resulting from a 2°C global warming. (Giannakopoulos, C., Le Seger, P., Bindi, M., Moriondo, M., Kostopoulou, E. & Goodess, C.)
- Negative impacts of climate change on cereal yields: statistical evidence from France (Gammans M. et al.)
- Extension of the CAPRI model with an irrigation sub-module (Blanco, M. et al.)
- Crop responses to temperature and precipitation according to long-term multi-location trials at highlatitude conditions. (Peltonen-Sainio, P., Jauhiainen, L. & Hakala, K.)
- Decreases in global beer supply due to extreme drought and heat (Xie, W. et al.)
- Climate change, wine, and conservation (Lee Hannah, Patrick R. Roehrdanz, Makihiko Ikegami, Anderson V. Shepard, M. Rebecca Shaw, Gary Tabor, Lu Zhi, Pablo A. Marquet, and Robert J. Hijmans)
- Climate change decouples drought from early wine grape harvests in France (Benjamin I. Cook & Elizabeth M. Wolkovich)
- Vineyards in transition: A global assessment of the adaptation needs of grape producing regions under climate change (David Santillán, Ana Iglesias, Isabelle La Jeunesse, Luis Garrote, Vicente Sotes)
- Assessment of climate change impact on viticulture:Economic evaluations and adaptation strategies analysis for theTuscan wine sector (Iacopo Bernettia, Silvio Menghinia, Nicola Marinellia, Sandro Sacchellia,Veronica AlampiSottinia)
- The impact of climate change on the global wine industry: Challenges &solutions (Michelle Renée Mozell, Liz Thachn)
- Climate change impacts on water management and irrigated agriculture in the Yakima River Basin, Washington, USA (Vano, J.A., et al.)
- The impact of climate change on the yield and quality of Saaz hops in the Czech Republic (Martin Mozny, Radim)Tolasz, Jiri Nekovar, Tim Sparks, Mirek Trnka, Zdenek Zalud
- Vulnerability of Sri Lanka tea production to global climate change (M. A. Wijeratne)
- Observing climate impacts on tea yield in Assam, India (J.M.A. Duncan, S.D. Saikia, N. Gupta, E.M. Biggs)
- THE FUTURE OF TEA A HERO CROP FOR 2030 (Ann-Marie Brouder, Simon Billing and Sally Uren)
- IDENTIFICATION OF SUITABLE TEA GROWING AREAS IN MALAWI UNDER CLIMATE CHANGE SCENARIOS (UTZ IN PARTNERSHIP WITH CIAT)
- Climate change adaptation in the Kenyan tea sector Ethical Tea Partnership
- Diversity buffers winegrowing regions from climate change losses. 2864-2869, PNAS, February 11, 2020. (Morales-Castilla, et.al.)
- Zebish et al (2005) "Climate Change in Germany Vulnerability and Adaptation of climate sensitive Sectors"
- FAO "Food and agriculture projections to 2050"

2050年の収量減による農産物調達コストインパクト および 2050年のカーボンプライシングによる農産物調達コストインパクト試算

- 大麦: Xieらの経済モデルを用いた研究成果に示される国別のビールの基準価格に将来的なビール価格の増減率を乗じることにより算出(ビール価格が大麦の調達コストとおおむね連動することを前提とする)
Decreases in global beer supply due to extreme drought and heat, Nature Plants, VOL.4, NOVEMBER 2018, 964-973 (Xie, et al.)
- 大麦以外: IPCCの「土地関係特別報告書 (SRCCL)」で取り上げられたHasegawaらの研究成果に示される、気候変動(収量へのインパクト)および緩和策(カーボンプライシング)による農作物コストの増減率より算出
IPCC (2019) Climate Change and Land: an IPCC special report on climate change, desertification, land degradation, sustainable land management, food security, and greenhouse gas fluxes in terrestrial ecosystems Chapter 5: Food Security
および Risk of increased food insecurity under stringent global climate change mitigation policy. Nature Climate Change, volume 8, pages 699-703 (Hasegawa T, Fujimori S, Havlik P, Valin H, BodirskyBL, DoelmanJC, FellmannT, Kyle P et al. 2018)

気候変動によるトウモロコシへのインパクト

- " Future warming increases probability of globally synchronized maize production shocks." Proceedings of the National Academy of Sciences Jun 2018, 115 (26) 6644-649. (Tigchelaa ret al. 2018)
- 農林水産省(2008)「最近の農産物・食品価格の動向について」
- 農畜産業振興機構(2010)「平成20年度甘味料の需要実態調査の概要」
- 農畜産業振興機構(2019)食品メーカーにおける砂糖類および人工甘味料の利用形態

資料編

参考文献

気候変動による異性化糖原料・大豆へのインパクト

- The impact of climate change on Brazil's agriculture (Zilli et al.2020)
- Productivity and welfare impact of climate change in sugarcane and cotton producing regions of Ethiopia (Weldesilassie et al.2015)
- Assessing the impact of climate change on sugarcane and adaptation actions in Pakistan (Farooq and Gheewala 2020)
- Simulating the Impacts of Climate Change on Sugarcane in Diverse Agro-climatic Zones of Northern India Using CANEGRO-Sugarcane Model (Sonkar et al. 2020)
- Effect of climate change on cash crops yield in Pakistan (Akbar and Gheewala 2020)
- Future climate change projects positive impacts on sugarcane productivity in southern China (Ruan et al. 2018)
- Assessing the impact of climate change on wheat and sugarcane with the AquaCropmodel along the Indus River Basin, Pakistan (Alvar-Beltrán et al. 2021)
- Climate Change and Potato Productivity in Punjab—Impacts and Adaptation (Rana et al. 2020)
- Impacts of Climate Change on the Potential Productivity of Eleven Staple Crops in Rwanda (Austin et al. 2020)
- Predicting the response of a potato-grain production system to climate change for a humid continental climate using DSSAT (Tooley et al. 2021)
- Potential Benefits of Potato Yield at Two Sites of Agro-Pastoral Ecotone in North China Under Future Climate Change (Tang et al. 2020)
- Response of potato biomass and tuber yield under future climate change scenarios in Egypt (Dewedar et al. 2021)
- Impacts of Climate Change on the Potential Productivity of Eleven Staple Crops in Rwanda (Austin et al. 2020)
- Estimating cassava yield in future IPCC climate scenarios for the Rio Grande do Sul State, Brazil (Tironi et al. 2017)
- Is Cassava the Answer to African Climate Change Adaptation? (Jarvis et al. 2012)
- Estimation of potential changes in cereals production under climate change scenarios (Tatsumi et al. 2011)
- Global crop yield response to extreme heat stress under multiple climate change futures (Deryng et al. 2014)
- The combined and separate impacts of climate extremes on the current and future US rainfed maize and soybean production under elevated CO₂ (Jin et al. 2017)
- Climate impacts on crop yields in Central Argentina. Adaptation strategies (Rolla et al. 2018)
- Mitigating future climate change effects on wheat and soybean yields in central region of Madhya Pradesh by shifting sowing dates (Balvanshiand Tiwari 2019)
- Changing yields in the Central United States under climate and technological change (Burchfield et al. 2020)

カーボンプライシングの影響評価

カーボンプライシングの影響試算

- 1) IEA [World Energy Outlook 2019] Annex A (現政策シナリオ・SDシナリオ)から将来の電力排出係数下落率を算定。
- 2) 基準年(2019年)のキリンググループエネルギー使用量・GHG排出量実績から電力排出係数の実績を算定、Step1で求めた係数下落率を乗じて2つのシナリオ(現政策シナリオ・SDシナリオ)における将来の電力排出係数を推計。
- 3) 算出した電力排出係数を使用してキリンググループにおける2030年・2050年時点のGHG排出量を予測。予測は、削減取り組みの有無により場合分けをした。
- 4) IEA WEO 2019の現政策シナリオをキリンググループシナリオ3に、SDシナリオをグループシナリオ1に対応させ、IPCC1.5℃特別報告書を1.5℃シナリオとして新たに設定し、それぞれのデータソースに示される炭素価格をシナリオごとの将来的な炭素価格の根拠として設定 (IEA WEO2019 P.758およびIPCC 1.5℃特別報告書 2.5.2.1 Price of carbon emissions)。
- 5) Step3で算定した将来的なGHG排出量の予測値にStep4で設定した炭素価格を乗じて将来の影響額を算定。削減取り組み有無による影響額の差分から、GHG削減に取り組まない場合のコスト増を算定した。

キリンググループのペットボトルの外部不経済

Beaumont et al.の試算から、海洋生態系サービスの減損を2011年のプラスチック1tあたり約36万円～356万円(約3,300米ドル～33,000米ドル)と推計。環境省の「PETボトルリサイクル年次報告書」から、日本から海洋に放出されるペットボトル比率の中央値を0.5%と推計。

キリンググループの国内主要会社における2018年のPET資源利用量66,894tとし、これらを乗じて試算。

- Beaumontetal. (2019) Global ecological, social and economic impacts of marine plastic
- 環境省(2018) 海洋ごみをめぐる最近の動向、PETボトルリサイクル協議会(2018) PETボトルリサイクル年次報告書

温暖化による感染症への関心拡大

- WHO : [Quantitative risk assessment of the effects of climate change on selected causes of death, 2030s and 2050s]
- WHO : [Dengue and severe dengue] 10 January 2022

温暖化による熱中症拡大[短～長期]

- S-8温暖化影響・適応研究プロジェクトチーム 2014 報告書
- 国立感染症研究所 ヒトスジシマカの分布域拡大について (IASR Vol. 41 p92-93: 2020年 6月号)

自然資本の移行リスク(認証品の調達)にかかる財務影響

- コーヒーおよび紅茶葉を認証品として調達した場合にかかるロイヤリティなどを乗じて試算。

自然資本の移行リスク(紅茶農園の農業・化学肥料削減)にかかる財務影響

- 現地でのヒアリング結果をもとに、化学肥料および有機肥料の価格、それぞれの肥料投下にかかる人件費を考慮して試算。